

# かけばし

昭島市立富士見丘小学校  
校長だより No.34

令和5年3月24日  
稲垣 達也



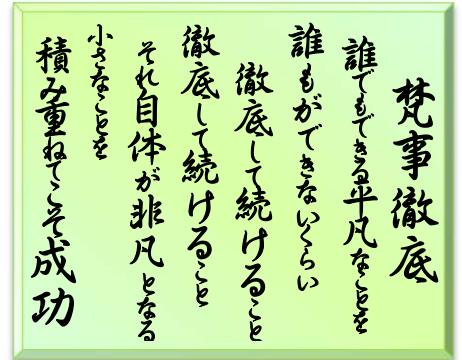
## 新たな歴史に向けて 基礎工事を継続

富士見丘小学校は、昭和22年に北多摩郡昭和町立玉川小学校分校として発足し、昭和24年に独立、開校しました。以来、あまたの人々が、かけがえのない歴史を刻んできました。

私が3年前に着任した時、心に決めたことは、「後世に恥じない学校経営」でした。その答えが**梵事徹底**です。

凡事徹底とは、革新的なことや特別のことではなく、目の前の課題をしっかりと捉えて「やるべきことを、当たり前のことを、徹底してやること」です。振り返れば、今年度も、直面する課題に取り組む中で、新たな歴史を刻むことができたと思います。

4月からも、当たり前のことを徹底してやり抜く「富士見丘小学校の新たな歴史」にご期待ください。



## 多様な教育機関等と協働して



【放送大学の講習動画】

放送大学「学習指導と学校図書館」で、本校の学校図書館を活用した授業が教材となりました。



【読売新聞教育ルネサンス】

本校の著作権に関する情報モラル教育の授業が、読売新聞の教育ルネサンスで紹介されました。



【北里大学の研究協力】

児童の言語力を、リーディングテストや作文のループリック等による評価手法を研究しています。



【調べる学習コンクール】

「図書館を使った調べる学習コンクール」にアキシマエンスと連携して全児童が応募しました。



【ふじみ探究ノート】

本校独自に開発した「ふじみ探究ノート」。昭和女子大学の教材としても活用されることになりました。



【東京都教育委員会の研修動画】

本校のユニバーサルデザインの取組が、東京都の教員を対象とした研修動画として紹介されます。

## 令和4年度 第74回 卒業式 校長式辞

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

このハレの日を迎え、昭島市長 白井伸介様、昭島市教育委員会委員 氏井初枝様のご臨席を賜り、この上ない喜びでございます。巣立ちゆく卒業生の門出に華を添えていただき、厚くお礼申しあげます。

保護者の皆様には、この佳き日を迎えられたこと、どれほど喜ばしいことか、感慨もひとしおのことと、心よりお慶びを申し上げます。輝かしい門出を迎える卒業生に対し、一層のお力添えを願います。

卒業生の皆さん、私が皆さんと過ごした3年間は、突然の休校から始まりました。当たり前前の日常が失われ、マスクをします、距離を空けます、歌えません。そうせざるを得なかったと、それが最善だったと、割り切れるものでしょうか。

過去は戻りませんが、過去を生かすことはできます。

皆さんは東日本大震災の年に生まれました。あの時、誰もが平和な未来を、穏やかな時代の到来を心の底から願いました。今の混沌とした世界を、誰が想像したのでしょうか。しかし、このような時こそ、新しい変化を生む糸口ともなります。その分かれ道は、私たちの心と行動にあります。私たちがどう考え、どう行動するか、大きな分かれ目です。

予測できない未来に対応する最善の方法が一つあります。みなさん自身が、その手で、新たな価値を生み出すことです。受け身ではなく、能動的に未来を創造し、切り拓くのです。未来を創る、新たな価値を生み出すことができるのは、あなたがたです。それが「未来の守護者である」皆さんに託されています。未来を切り拓いてください。

さて、皆さんは、卒業を前に、総令の時間や思索コンテストで、「何のために働くのか」ということを深く追求してきました。

働くことと、生きることは、同じです。なりたい自分になるためです。私の「なりたい自分」は、「人のために生きる」ことだというお話をしましたね。人のために何かができたら、人のために生きることができたら、どんなに素晴らしいことか。

想像してみてください。みなさんが生まれた日のことを。おギヤーと生まれた時のことです。あなたが生まれた時、あなたの周りにいた人たちがどんなに幸せに包まれたことか。想像してみてください。

小さなあなたが笑うたびに、誰もが笑顔になりました。小さなあなたが泣いていれば、どんな忙しくとも疲れていても、あなたのために精一杯尽くしてくれました。それがどれほどの喜びだったか分かりますか。

誰かのために何かをすることというのは、そういうことです。他のことでは味わえない特別な喜びで心がいっぱい満たされるのです。自分の時間を純粹にあなたのために使っていたからこそ、湧いてくる喜びだったのです。

そして今日、みなさんがこうして、威風堂々と、小学校を卒業していく姿は、みなさんからの大きな幸せのお返しです。

そろそろ、さようならを言う時間です。別れは、儂く、悲しく、せつないものです。リンドバーグの夫人が、さようならという言葉に、これまで耳にした別れの言葉で、このように美しい言葉を私は知らない、と語ったそうです。

さようならという言葉は、元々、左様であるならば、という接続詞が語源だそうです。左様であるならば、ほんとうは別れたくないけれど、どうしてもそうしなければならぬのであれば、別れを紛らわせたり、悲しんだりするのではなく、ありのままを受け止め、未来へつなげようとする前向きな意思が、「さようなら」という言葉の中に織り込まれています。まさに「仰げば尊し」の「今こそ別れめ いざさらば」です。

さあ、旅立ちの時を迎えました。別れを惜しみつつ、この別れが必要なものであることを受け止め、恩師や友と過ごしたかけがえのない時間を胸に、振り向かず、立ち止まらず、前を向いて、歩き始めてください。

卒業生の皆さん 今日まで本当にありがとう そして さようなら。

令和5年3月24日

昭島市立富士見丘小学校長 稲垣 達也

# 第74回卒業式



卒業式の朝 正門で



卒業生入場



国歌斉唱・校歌斉唱



校長式辞



市長祝辞



教育委員会告示



在校生送辞「明日につなぐもの」



卒業生答辞「旅立ちの日に」「上げば尊し」



卒業生退場「威風堂々」



門出送り



ランドセル姿も今日が最後



満開の桜の樹の下で、笑顔も満開の記念撮影